

博士論文の審査結果の要旨

専攻	医療・生命薬学専攻	分野	
学籍番号	12R3002	院生氏名	伊藤 かおる
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	日米欧の高血圧診療ガイドラインにおける医療経済評価の活用状況とわが国における降圧薬の費用効果分析		
審査結果 (枠で囲む)	<input checked="" type="checkbox"/> 合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>わが国の高血圧罹患者数は、現在 4,300 万人にのぼると試算されており、今後、人口の高齢化に伴い、さらに増加すると予想されている。そのため、高血圧症とその関連疾患に費やされる医療費は莫大になると考えられる。高血圧症に対する薬物療法では、チアジド系利尿薬、カルシウム拮抗薬、β受容体遮断薬、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシン受容体拮抗薬など様々なタイプの降圧薬が使用されている。これらの降圧薬は、それぞれ臨床的特徴を有し、薬価も様々なタイプに設定されていることから、使用に際しては有効性だけでなく経済性についても注意する必要がある。しかし、わが国の降圧薬療法における費用対効果については、診療ガイドラインにおいて考慮されているか否かを含め、不明な点が多い。</p> <p>これらの点を明らかにするため、論文提出者は 2 つの研究 (研究 I、II) を行った。研究 I では、日米欧における高血圧診療ガイドラインから、推奨降圧薬の決定過程において医療経済的観点かどの程度反映されているかを検討した。その結果、英国では費用効果分析を行い推奨薬を決定しているが、日本と米国の高血圧診療ガイドラインでは、降圧薬推奨の根拠に経済的視点は考慮されていないことを確認した。そこで研究 II では、わが国で多用されている主要降圧薬に関する費用効果分析を、独自に開発したマルコフモデルを用いて実施した。その結果、65 歳以上の高血圧患者を対象とした解析において、β受容体遮断薬、アンジオテンシン変換酵素阻害薬およびアンジオテンシン受容体拮抗薬は、男女ともにチアジド系利尿薬やカルシウム拮抗薬よりも期待費用が高く期待効果が低いことを認めた。さらに、カルシウム拮抗薬による治療は、チアジド系利尿薬に比べ費用は高いものの、期待効果が十分高いことから費用対効果は良好であることを突き止めた。</p> <p>これらの結果は、費用対効果の点でカルシウム拮抗薬が高血圧治療の第一選択薬として最も優れていることを示す新しい知見である。また、こうした医療経済的観点からの推奨薬決定は、今後高血圧治療は長期に高血圧診療ガイドラインに反映されることも期待できるだけに、本研究結果の意義は大きいと思われる。初回審査に提出された論文の内容・構成については、一部不適切であったため再提出を求めたところ、該当箇所は適切に修正されていた。また、論文提出者に対し論文内容および関連領域について試問したところ、適切な回答が得られた。なお、本研究は公表資料に基づく研究であり、倫理上の問題はないことを確認した。以上より、審査会の審査員全員は本論文を博士 (薬学) の学位を授与するに価値があると判定した。</p>			
論文審査担当者	主 査	原 明義	
	副 査	黒澤美枝子	
	副 査	百瀬 泰行	